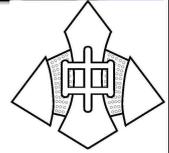


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年5月14日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

“コロナにかかわる差別・偏見”を考える 新型コロナウイルス感染症対策に伴う特別授業

新型コロナウイルスの感染状況について、県内では相次ぐクラスターの発生、学生など若年層の感染増加、変異種の流入などにより拡大傾向にあることから、福島県は県内の感染状況を「ステージⅢ」と判断し、5月8日から緊急特別対策をとっています。これを受けて、学校においても感染リスクの高い教育活動を停止・制限するなどの対応をとることになりました。そこで、5月10日（月）の1校時に、全校放送による特別授業を行いました。各家庭に配付する通知をもとに学校の対応などについて説明した後、今回は特に2つの資料から“新型コロナウイルスにかかわる差別・偏見”について考えることにしました。

初めに『もうこの街にはいたくない』という感染者が語る“コロナ差別”に関する音声資料を流しました。感染者となったある女性がその胸の内を語ったもので、一番つらかったのは自分だけでなく家族が批判されたことや住所が特定されたことであったという話です。症状が回復し自宅に戻った後、この女性を待っていたのは地域にあふれる差別でした。入店拒否、SNSによる誹謗中傷、家への落書きなど、心が休まらない日々が続いたという生々しい証言が続きました。

そして、この差別をうける女性とは対照的に、症状が回復した人物が自分のアパートに戻った時に、他の住人達から拍手や労いの言葉で出迎えられるというスペインでの出来事が紹介されました。

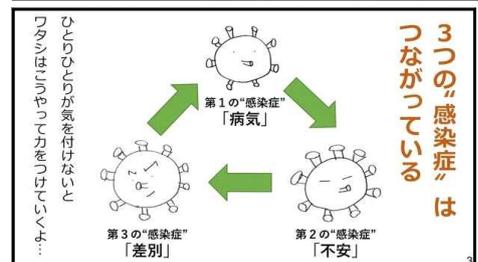
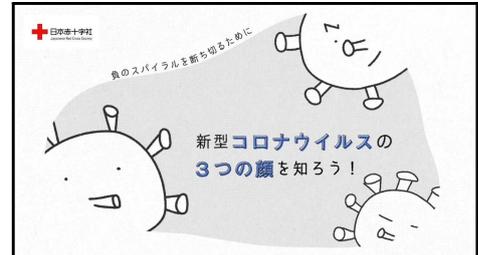
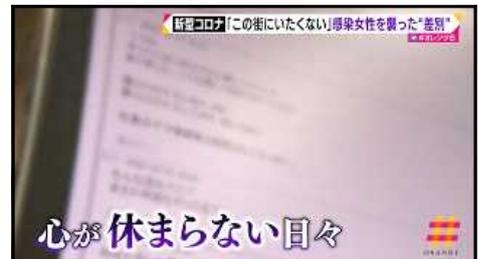
この女性が最後に言った言葉がとても印象的でした。

「悪いのはウイルスであって人ではない。明日は我が身であるということ。“されたら嫌だ”ということはず、 “されたらうれしい”と思うことをお互いにしていける日本になってほしい。」

特別授業の後半は、日本赤十字社の『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』を視聴しました。この資料は1年以上も前に発表された資料ですが、今の状況でも大切なことを考えることができる資料です。以前学校だよりでも紹介したことがありますが、今回はフルバージョンで資料を提示しました。



担任の先生の協力を得ながら授業を進めました



「病気」、「不安」、「差別」という3つの感染症とこの3つが繋がり“負のスパイラル”で広がっていく。そこから、人間のどのような気持ちから3つの感染症が繋がっていくのか、3つの感染症を防ぐためにどのような工夫ができるのかなどについて考えることができました。

我々は今、《自分を大切にできる心》と《周りの人を大切にできる心》が試されていると言えます。ウイルスとの戦いは長期戦になっていますが、それぞれの立場でできることを行い、みんながひとつになって“負のスパイラル”を断ち切っていきたいと思います。

特別授業で 考えたこと

“今回の授業で感じたことや考えたこと”について、数名のものを紹介します。「なるほど！」と感心させられた考え方がたくさんありました。

感染していくのは知っていたけど、不安や差別までつながって引き起こされていたんだと思うと、その感染力はすごく強いものなんだと思いました。「自分が差別されたくない」という思いで誰かを差別するのは間違っているし、感染が広がっていくなかで、いかに「自分や周りを大切に作る心」がもてるかというのが大事なんだと思いました。感染拡大しているのは、決して他人事じゃないし、常に自分の事としてとらえ、一人一人がきちんと対策することが第一なんだと思います。私たち一人一人が命を大事にすることを忘れないでいたいと思います。(2年 渡部有咲)



まだまだ感染が広まる中で、慣れてきたのか、マスクをしていない人や密をさけない人が多くいます。その影響によっていろいろな人が差別を受けて辛い思いをしていることが、今回改めてわかりました。気をゆるめず、常に緊張感を持ち感染しないように努めながら、自分の変化に素早く気づき、差別などをしないように気をつけていきたいです。コロナウイルスの感染がいつ終わるかわからないという不安でいっぱいの日々ですが、一人一人が自分ができることを考えて、行動におこし、みんなが協力して「負のスパイラル」を断ち切るように頑張っていきたいです。そして、医療関係者などこの事態に対応している全ての方々に敬意と感謝の気持ちを忘れずに、日々を過ごしていきたいです。(2年 大堀夏音)

まずは自分ができることは、感染症対策をしっかりとやるということです。感染症対策をして、まずは自分が感染しないようにすることが大切だと思いました。そして、コロナに感染した人を差別して、感染した人を嫌な気持ちにさせたりしないで、心配するなどやさしい対応ができるようになりたいです。周りの人にふりまわされないで、自分の考えで動けるようになりたいです。(2年 石射祐二)



今回の放送で聞いた音声や資料で、世の中にはコロナウイルスにかかった時も、その後も苦しんでいる人がいることに気づきました。もちろん、ニュースなどでそのことは知っていたのですが、自分や周りのことにならないと実感がなく、「自分には関係ない」と心のどこかで思っていました。ですが、実際学校で改めて“事の重大さ”を知ることができました。今はとにかく自分にできることをしていきたいです。(3年 味戸耀星)

今このコロナ渦の中で最も大切なことは、冷静になることなのだと考えた。第1の感染症「病氣」に関しても、人目や差別を気にして検査を受けない。第2の感染症「不安」に関しても、不確かな情報をうのみにして過剰に不安がる。第3の感染症「差別」に関しても、相手の気持ちを気にせず批判する。どれも判断力に欠けていると思う。そのため、一度冷静になることで、負のスパイラルを断ち切れると思う。そのためには新型コロナウイルスを正しく知って、正しく怖がるのが大切だ。コロナと上手に付き合っていくべきだと思う。(3年 木原碧仁)

本来ひとつになって協力していかなければならない人同士で、差別や偏見が起こってしまうのは、とても怖いことだと思いました。そして、自分も差別や偏見の心を持っていたのではないかと恐ろしく感じました。音声資料の中にあつたスペインの方々のように、人と人とで支え合う姿が理想的なんだと思います。コロナウイルスに感染してしまった人も感染予防はしていたでしょうし、感染したかった人なんていないと思います。今までにない状況の中で不安を感じるのは私も同じです。でも、差別の心につながるように気を付けていきたいです。(3年 佐々木柚依)



今回は、県の「緊急特別対策」の措置と教育委員会からの通知を受け、感染症対策の強化・徹底及び偏見・差別の防止という2つの視点から、急遽授業を行いました。紙媒体と音声資料を使つての授業でしたが、授業の意図は伝わったのではないかと思います。今回も“他人事から自分事へ”という考え方が大切になります。「やまない雨はない。今はどしゃ降りでも、そのうちきっと晴れ間がのぞく時が来る。」…今の我々には、そう信じて、今できることを手を抜かず実行していくしかないと考えます。